

大分県立高等学校における魅力ある学校の実現について ～「通学区域制度検証委員会（答申）」を踏まえて～

項 目	具体的な対応策	概 要
1. 「通学区域制度の在り方に関すること」について		
全県一区をベースに一部の選抜方法で通学区域を設定する制度設計	一次入試に複数校志願制度を導入	・選抜の資料は、一次入試の合計点及び調査書点 ・第二志願校の出願は、入学考査料は徴収なし ・普通科への第二志願は、出願可能な高校を出身中学校の所在地ごとに決定
2. 「地域の高校の魅力づくり及び教育の質の担保に関すること」について		
(1) 今後の県立高校の在り方の検討	「大分県立高等学校未来創生ビジョン」の検証・見直し	R7.9～ 教育庁内にWGを設置。大分県立高校の将来像に係る協議の論点整理や外部有識者による協議 R10.3 「大分県立高等学校未来創生ビジョン」の改訂版を公表
	学校運営協議会を全県立高校に設置	R8 大分市・別府市以外の地域の高校に学校運営協議会を設置 R9 大分市・別府市の高校に学校運営協議会を設置
(2) 魅力化・特色化の推進	学びの特色化や探究的な学びの充実	・専門学科で、関連企業等との連携を図った学校設定科目等で他校との差別化 ・「探究的な学びの充実」を第三者評価において評価 ・国の事業を活用するなどして、地域コーディネーターの確保と活用を検討
	施設・設備の充実	・専門学科(特に工・農・水産)で、特色ある学習に資する施設・設備の充実 ・学校外で使用するのと同程度の機能を備えるトイレに段階的に整備 ・避難所となっている地域の学校から優先的に体育館の空調設備を整備
	多様な生徒の受け入れ	特色ある教育活動の実施、地元自治体からの支援により「全国募集」を導入
	地域の高校における通学支援	地域の交通事情を踏まえ、コミュニティバスとして併用する形でのスクールバスの導入が実現可能であるかについて、市町村とともに検討
(3) 大分県立高等学校入学者選抜の工夫・改善	自己推薦入学者選抜の導入を検討	中学校長からの推薦書を必要とせず、多様な活動及び学力などの総合力を評価して選抜する「自己推薦入学者選抜」の導入を検討
(4) 義務教育段階でのキャリア教育や中学校での進路指導	情報や体験の機会を提供する取組	・中3生を対象に、全県立高校を紹介する「高校ナビ」を配布 ・小中学生を対象に、専門学科の学びを体験する「おおいたくらふとりんく」を開催
(5) 遠隔教育の充実	配信センター方式による遠隔教育	配信校、配信教科を順次、拡大する予定

大分県立高等学校における魅力ある学校の実現について ～「通学区域制度検証委員会（答申）」を踏まえて～

令和7年7月10日
大分県教育委員会

1. 「通学区域制度の在り方に関すること」について

[対応の方向性]

- 答申では、「通学区域制度の在り方に関すること」として、次のことが示されている。
 - ・自由に、主体的に進路選択をする経験は、若者の人間形成において大切。その経験を提供するうえで、全県一区の理念は大切にすることが望ましい。
 - ・「全県一区」と「分割通学区域」とを二項対立の構図とせず、全県一区をベースとしながら、一部の選抜方法で通学区域を設定する制度設計もあり得る。
- 以上のことから、令和7年度大分県立高校入試の志願倍率の低下に加え、令和8年度からの授業料の無償化による公立高校離れの懸念などを踏まえ、地域の高校の維持、地域の活性化の観点からも、可能な限り早期に対応策を講じ、導入することが必要である。

[具体的な対応策]

(複数校志願制度の導入)

- 公立高校入試において、一度の受験で複数校を志願できる制度については、受験機会を拡大するものであり、定員確保の対策としても、一定のメリットがあると考えられる。そこで、本県においては、令和8年度大分県立高等学校入学者選抜における「一次入試」に「複数校志願制度」を導入し、「二次入試」は実施しないこととする。概要は次のとおりとする。

【複数校志願制度の概要】

- ・一次入試の募集または合格発表において、志願倍率が1倍を下回る学校または定員充足していない学校を「第二志願可能校」として公表し、当該校において第二志願を募集する。
- ・選抜の資料は、一次入試の合計点及び調査書点とする。
- ・第二志願校の出願に際しては、入学考査料は徴収しない。
- ・普通科への第二志願については、出願可能な高校を出身中学校の所在地ごとに定める。
- ・専門学科、総合学科への第二志願については、出願可能な学校に制限を設けない。

2. 「地域の高校の魅力づくり及び教育の質の担保に関すること」について

(1) 今後の県立高校の在り方の検討

[対応の方向性]

- 県教育委員会では、令和6年3月に、今後10年間の方針として、「大分県立高等学校未来創生ビジョン」を策定したところである。進路選択の多様化がさらに進み、高校授業料の無償化などの状況の変化も生じる中、県立高校の再編の方向性も含めた将来像を、具体的に示すための協議をすすめることとする。

[具体的な対応策]

(「大分県立高等学校未来創生ビジョン」の検証・見直し)

- 「大分県立高等学校未来創生ビジョン」は、策定後5年を目途に内容の見直しについても必要に応じ検討することとしているが、高校の授業料の無償化など様々な社会状況の変化を踏まえ、スケジュールを前倒しして、この検証、見直しを進めることとする。

【協議等のスケジュール】

令和7年9月～ 教育庁内にワーキンググループを設置し、大分県立高校の将来像に係る協議の論点整理や外部有識者による協議
令和10年3月 「大分県立高等学校未来創生ビジョン」の改訂版を公表

(学校運営協議会の設置)

- 今後の学校づくりにおいては、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの実現に向けて、保護者や地域、大学や企業、関係機関など、様々な立場からの知見を活かした学校運営が必要である。特に、定員の確保に課題が見られる地域の学校においては、学校の魅力化・特色化の観点からも地域との連携、協働が不可欠である。そのため、次のスケジュールで、学校運営協議会をすべての県立高校に導入する。

【導入の方向性】

令和8年度 大分市・別府市を除くすべての地域の学校に学校運営協議会を設置し、「地域連携型コミュニティ・スクール」として地域とともにある学校づくりを推進。
令和9年度 大分市・別府市のすべての学校に学校運営協議会を設置し、「テーマ型コミュニティ・スクール」として学校・学科等の更なる魅力化を推進。

(2) 魅力化・特色化の推進

[対応の方向性]

- 生徒数が大幅に減少し、学校規模が縮小していく中、地域の学校や本県の産業を支える人材育成を担う専門学科の魅力化、特色化は不可欠である。学びの特色化や探究的な学びの充実はもちろん、人的配置、施設設備の整備など、可能なものから取り組むこととする。

[具体的な対応策]

(学びの特色化や探究的な学びの充実)

- 専門学科設置校においては、各地域の産業を踏まえ、関連企業、関連機関等との連携を図った特色ある学校設定科目を設置するなど、他校との学びの差別化を図ることとする。
- 探究的な学びの充実については、現在、県全体で取組を推進しており、特に、地域の高校においては、「魅力化推進事業」により、地域資源を活用した特色化に取り組んでいるところである。これを客観的に評価するため、令和8年度の第三者評価から、評価項目として「探究的な学びの充実」を新たに定めて、さらなる改善を図る一助とする。
- 地域の人的・物的資源を効果的に活用して、その地域ならではの探究的な学びを充実させるには、地域と学校とをつなぎ、連携を促進する役割を担う人材（地域コーディネーター）の役割が極めて大きい。他県においてもこのような役割の配置が進んでおり、本県においても、国の事業を活用するなどして、人材の確保と活用について検討することとする。

(施設・設備の充実)

- 本県の産業を支える人材を育成する専門学科、特に県立高校が人材育成の中心となる工業科、農業科、水産学科等においては、時代の変化に即応した、特色ある専門教科・科目の学習や課題研究に資するよう、学科の特性に応じた施設や設備の充実を図ることとする。
- 生徒が日常使用する設備については、高校生活の安全・安心に係るものであり、学校選択の重要な要素ともなる。トイレについては、洋式化に留まらず、生徒が学校外で使用するのと同程度の機能を備えたものとなるよう段階的に整備を進める。また、体育館の空調設備については、避難所となっている地域の学校から優先的に整備する。

(多様な生徒の受け入れ)

- 進路選択が多様化、広域化する中、本県の中学生在が県内の高校を選択し、また、他県の中学生在が進んで本県の高校を選択することは、地域の高校の維持・活性化を図る

うえで非常に重要である。また、多様な考えや背景を持つ生徒が集い、刺激を与えあうことは、本県で学ぶ全ての高校生にとっても大きな価値がある。そのため、特色ある教育活動が展開されている地域の高校で、当該高校の活性化に向けた地元自治体からの支援が得られる場合には、積極的に全国から志願者を募る「全国募集」を導入することを検討し、受け入れに必要な住環境の整備等に市町村と連携して取り組むこととする。

〔地域の高校における通学支援〕

- 地域の人口減に伴う路線バスの廃止や減便は、地域の高校への通学手段に困難を抱える生徒の増加を生じさせ、地域の学校の縮小化を加速させる懸念がある。地域の交通事情を踏まえ、コミュニティバスとして併用する形でのスクールバスの導入が実現可能であるかについて、市町村とともに検討する。

（３）大分県立高等学校入学者選抜の工夫・改善

〔対応の方向性〕

- 中学校卒業予定者数の減少、進路選択の多様化及び早期化に対応するため、先述の「複数校志願制度」に加え、「学校による推薦を必要としない自己推薦型の入学者選抜」など、従来実施していない新たな入学者選抜の仕組みについて、早急に検討する。その際、地域の生徒が地域の高校を選びやすくするような制度設計を講じる。

〔具体的な対応策〕

- 中学校長からの推薦書を必要とし、主に特別活動の実績等を評価して選抜する「推薦入試」とは別に、他県でも導入が進む入試として、中学校長からの推薦書を必要とせず、多様な活動及び学力などの総合力を評価して選抜する「自己推薦入学者選抜」について、令和９年度入試からの実施を検討する。

【自己推薦入学者選抜の概要】

- ・各学校・学科の求める生徒像に合致する生徒を対象に、中学校長からの推薦書を必要とせず実施する選抜として、すべての高校で実施する。（各学校が指定する活動に取り組む生徒を対象に、中学校長からの推薦書を必須として実施する「推薦入学者選抜」は引き続き実施（実施については学校ごとに決定））
- ・選抜の資料は、調査書、志願理由書を必須とし、学力検査、適性検査、実技検査、個人面接、集団討論、集団面接のうち、学校ごとに定める。

- 県立高校の入学者選抜については、令和9年度入試から、Web出願システムを導入することにより、出願手続きから成績開示までの入試事務を円滑化させ、時間を縮減させることが可能となる。従来は、紙で作成される受験票の発行、発送などに一定の時間が必要であるため、出願から受験までに長期を要していた。また、学校行事等との関連により、年度によっては二次入試の合格発表が、3月下旬にずれ込んで、高校入学準備の期間が十分に取れないといったケースも生じていた。Web出願システムの導入、「複数校志願制度」の実施及び「自己推薦入学者選抜」の実施の検討に伴い、願書の出願期間や入学者選抜の実施期日についても、検討を進めることとする。

(4) 義務教育段階でのキャリア教育や中学校での進路指導

[対応の方向性]

- 進路選択をする中学生及びその保護者にとって、本県の県立高校の全体像をつかんだり、幅広い情報に触れたりする機会は非常に重要である。また、小中学校の教員にとっては、専門学科での学びを自ら体験したり、自身の教育活動が高校段階でどのように発展するのかを理解したりすることは、キャリア教育や進路指導の場面で有益であろう。そのため、児童生徒はもちろん、小中学校の教員が、高校での学びを理解する場面の充実に努めることとする。

[具体的な対応策]

- 小中学生やその保護者、小中学校の教員など、対象に応じて、必要な情報や体験を提供できるよう、今年度、新たな取組を行う。

【情報や体験の機会を提供する新しい取組】

① 「高校ナビ」の作成・配布（中学3年生及びその保護者対象）

各県立高等学校の設置学科や学びの特徴等について、一元的にまとめたリーフレットを作成し、配布する。

② 「おおいた くらふと りんく」の開催（小中学生及びその保護者対象）

参加者が、専門学科での学びに関する体験型ワークショップへの参加や、専門学科で学ぶ高校生との交流を通して、地域産業の担い手を育成する専門学科への理解を深める機会として開催する。

③ 「小中高連携キャリアガイダンス」（小中学校の教員対象）

在籍地域の産業の在り方や高校段階での担い手育成について理解し、生活科や総合的な学習の時間の充実に生かすなど、キャリア教育の指導力、進路指導力の向上を図る機会として開催する。

(5) 遠隔教育の充実

[対応の方向性]

- 少子化が急速に進み、地域の学校規模が縮小する中、遠隔授業は平素の自校の授業だけでは保証しきれない生徒同士の切磋琢磨の機会を提供するなど、どの地域でも多様で質の高い教育を提供できる仕組みとして展開するものである。現在、本県では、遠隔教育配信センターからの配信センター方式において、英語、数学の授業を配信しているところである。今後、ますます学校規模が縮小していく中、高校段階で必要な学習活動や生徒のニーズに応じた学習レベルが提供されるように、様々な手段を講じることが必要である。配信側の教員数や、配信と受信に必要な施設・設備の充実などの課題は大きい。今年度の導入校における成果と課題を検証しつつ、今後の取組を推進することとする。

[具体的な対応策]

- 配信センター方式による遠隔教育については、次の通り、配信校、配信教科を順次、拡大する予定とする。

【配信センター方式による今後の導入計画】

年度	対象校数	対象校	対象生徒	配信教科・科目
令和7年度	4校	臼杵・佐伯鶴城・日田・宇佐	理系・2年生	英語・数学
令和8年度	12校	臼杵・佐伯鶴城・日田・宇佐	理系・2年生	英語・数学
		高田・国東・杵築・別府鶴見丘・竹田・玖珠美山・中津南・安心院	理系・3年生	英語、数学、理科（化学・物理）
令和9年度	17校	高田・国東・杵築・別府鶴見丘・竹田・玖珠美山・中津南・安心院	理系・2年生	英語・数学
		臼杵・佐伯鶴城・日田・宇佐・高田・国東・杵築・別府鶴見丘・竹田・玖珠美山・中津南・安心院	理系・3年生	英語、数学、理科（化学・物理）
		別府翔青・由布・津久見・三重総合・中津北	理系・2年生	英語・数学
令和10年度	17校	臼杵・佐伯鶴城・日田・宇佐・高田・国東・杵築・別府鶴見丘・竹田・玖珠美山・中津南・安心院・別府翔青・中津北・由布・津久見・三重総合	理系・2年生	英語・数学
			理系・3年生	英語、数学、理科（化学・物理）